

赤井川村地域公共交通活性化協議会

令和元年10月28日設置



赤井川村

概要

当村は、その四方を山々に囲まれた「カルデラ」状の地形をなしており、近隣市町村とは、山を越えての隣接となる地理的特性を持っている。気象条件は盆地特有の内陸型気候で、冬は積雪が多く北海道でも有数の豪雪地帯である。主産業は、農業と観光業で、農産物の品目は多岐にわたり、観光業では、キロロリゾートを中心として、ウィンタースポーツを始め、グリーンシーズンのアウトドアスポーツなどがあり、観光客も増加している。

人口は、平成の時代では平成6年1,543人をピークに減少しつづけ、平成26年に1,137人まで減少をしたが、外国人の増加により、現在は1,176人(R2.12月末現在)と増加傾向にある。また、外国人が現在99人居住しており、全体の1割弱を占めている特異な地域である。

高齢化率は、R3.1.1現在当村は、34.1%であり北海道平均32.1%と比較して2.0%高く、全国平均28.7%と比較すると5.4%高くなっている。過疎地域である他の町村と比較すると、リゾートがあることから高齢化率は低くなっている。

○地域公共交通の現況

- ・北海道中央バス(株)(1路線)
- ・赤井川村公共交通バス(市町村有償運送 1路線)
- ・スクールバス(1路線)
- ・村内循環温泉送迎バス(第2 第4木曜日 1路線)

○地域公共交通の課題

- ・村内唯一の地域間公共交通の維持・確保
- ・地域公共交通の利用促進
- ・交通空白地の縮小

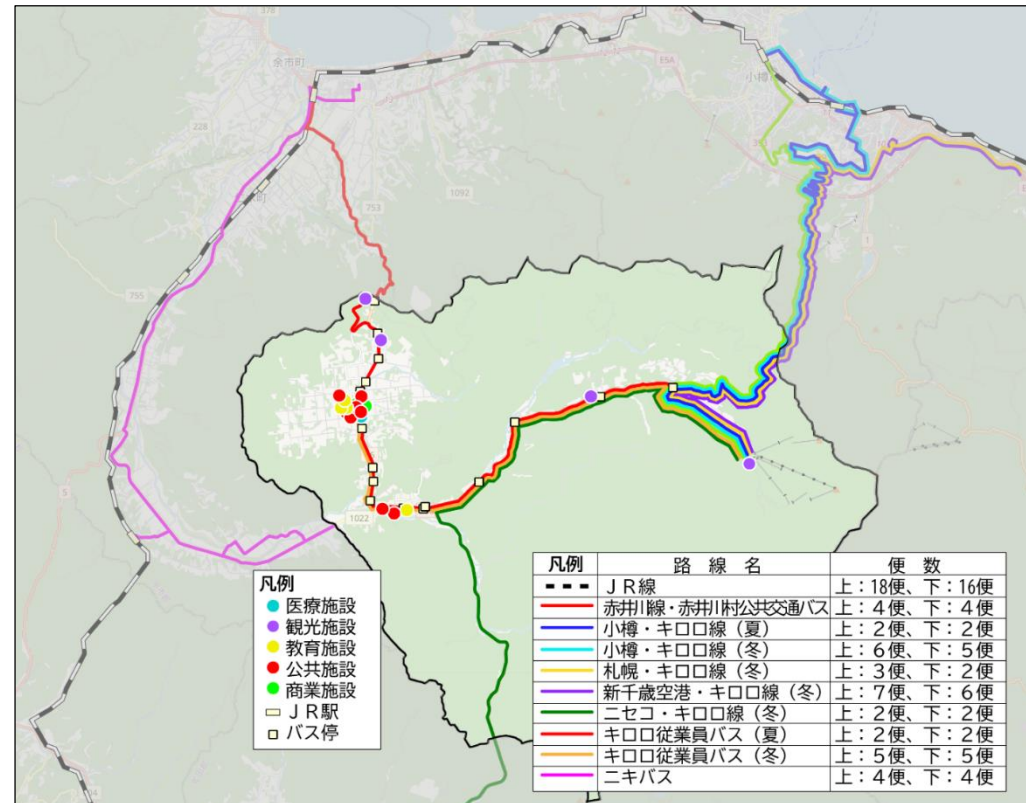
○調査の主な内容

- ・住民懇談会
- ・地域公共交通計画(案)作成
- ・実証運行立支援 ・協議会開催

○地域公共交通活性化協議会開催状況(令和3年度)

- 6月11日 第1回協議会を開催
 - ・赤井川村地域公共交通活性化協議会監事選任、決算予算、事業計画について
 - ・実証運行ルート案について ・地域内フィーダー系統確保維持計画案について
- 8月27日 第2回協議会を開催 ・実証運行について
- 9月24日 第3回協議会(書面開催)
 - ・実証運行路線の変更について
 - ・観光庁補助事業を活用した民間バス会社による小樽・キロロ間実証運行について
- 11月17日 第3回協議会(書面開催)
 - ・自家有償旅客(交通空白地有償運送)の更新について
- 11月17日 第4回協議会(書面開催)
 - ・自家有償旅客(交通空白地有償運送)の更新について
- 12月28日 第5回協議会
 - ・実証運行の結果 ・キロロ・小樽線ほかの実証運行状況 ・地域公共交通計画案
 - ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価

公共交通の概要



赤井川村地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

◆実証運行結果

10月1日から11月30日まで実証運行実施

○10月の利用者数は579人

1日あたりの平均利用者数は18.7人

○11月の利用者数は569人

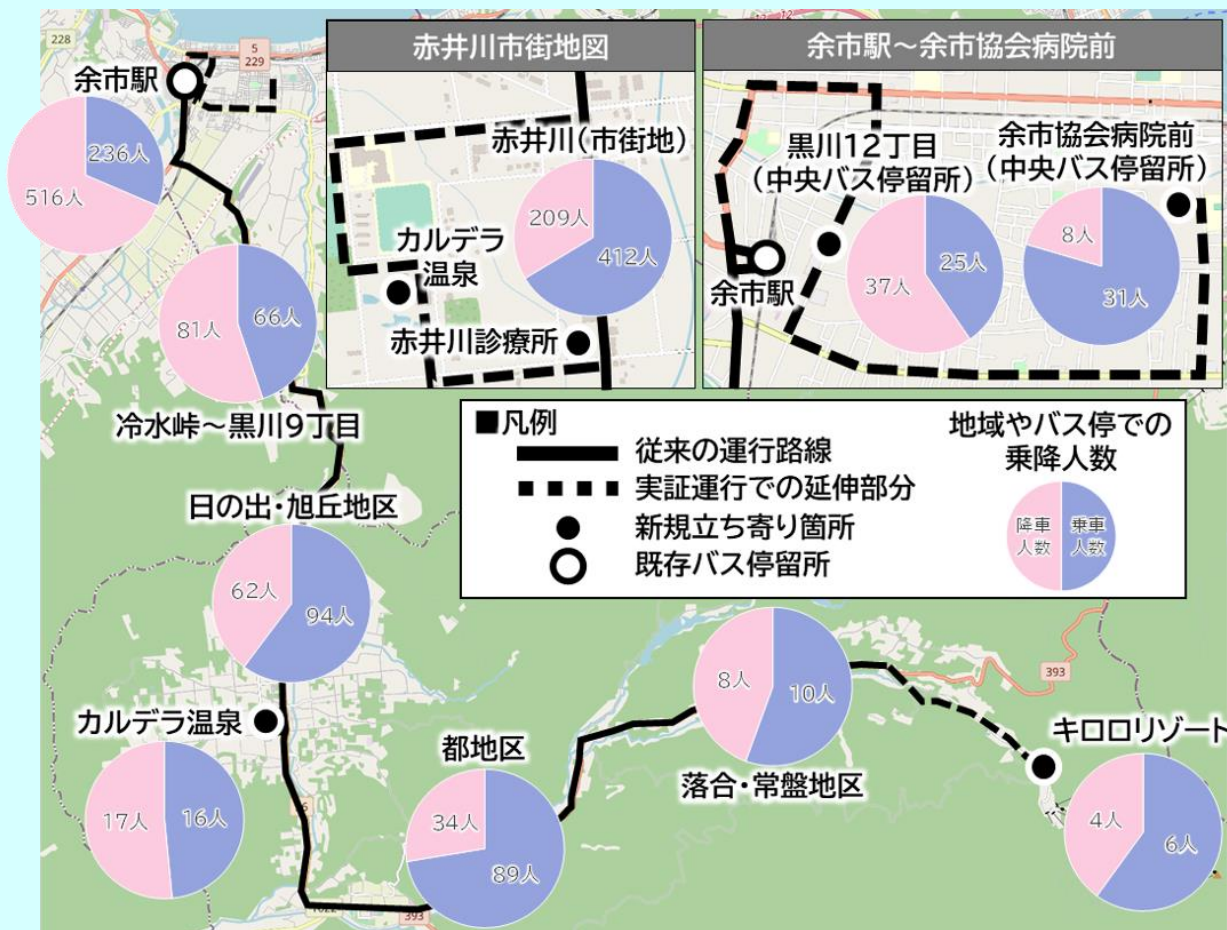
1便あたりの平均利用者数は19.0人

○往路(赤井川村→余市町)利用者737人
復路(余市町→赤井川村)利用者411人
往路の利用者は復路に比べて約1.79倍多かった。

○1便(6:00キロロ発 6:45余市駅着)の利用が多く、通学、通院による平日の利用が特に多かった。

○4便(10:40余市発赤井川行き)、5便(11:40道の駅発余市行き)の空車が多かった。

○赤井川村民だけでなく、余市町民の利用も一定数みられた。



赤井川村地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

◆意見交換会等の主な意見

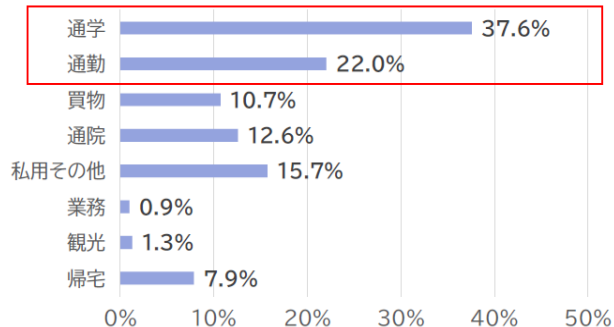
- ・ 1便の運行により、通学の朝の送迎がなくなって大変よかった。今後も継続してほしい。
- ・ 通学のため6:51小樽行きへ乗り換えできる運行を継続してほしい。
- ・ 高校や部活によって帰宅時間が様々なため、すべての高校生が乗車するバス時刻の設定は難しい。
- ・ 定期券、回数券を検討してほしい。定期券は片道も検討してほしい。
- ・ 時刻表上では通学できるが、実際乗車してみると予定した便に定員超過のため乗車できないなど、実際通学している人の状況を今後高校生になる保護者に情報提供してほしい。
- ・ 実証運行においては、余市発13:15となり、複数の用事、通院を行うことができなかった。
- ・ 余市13:15発、17:35発の間にもう1便あるといい。
- ・ 時間に余裕が無く、1つの用事しか足すことができなくなった。
- ・ 余市町内のバス停にもう少し止まって欲しい。
- ・ 村内のバス停までの移動の確保の検討が必要。
- ・ キロロリゾートまで運行すると特に冬期間観光需要が見込めるため、継続してほしい。
- ・ 料金設定は距離応じて設定するものなので、村内一律の料金設定を検討してほしい。
- ・ 利用促進策も実施してほしい。

■利用者アンケート調査結果

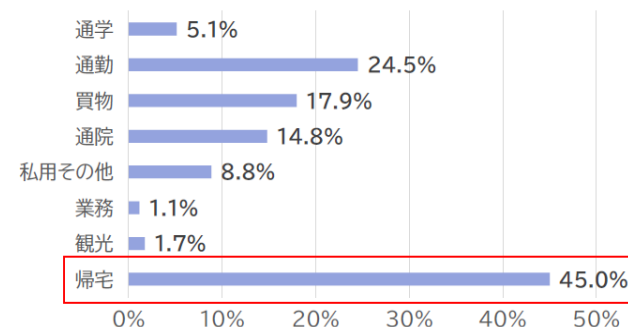
P10

※アンケート結果より、通学通勤及び帰宅の利用が多く、赤井川村に住み続けられるための重要なライフラインとしての公共交通網の構築が重要

問1 利用目的(n=636)【往路】



問1 利用目的(n=351)【復路】



赤井川村地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針

赤井川村地域公共交通計画における施策及び目標（案）

2021/12/28

方向性①赤井川村に住み続けられるための重要なライフラインとしての公共交通網の構築

【施策イメージ】 実証運行結果や住民意見をもとにした公共交通の確保

施策①赤井川村・余市町間を繋ぐ公共交通の継続した確保・見直し

- ⇒令和4年4月から自家用有償運送（交通空白地有償運送）による運行体制を目指す
- ⇒住民意見、利用者動向をもとにした見直しの継続
- ⇒朝の通学時間帯の利用を確実に確保するとともに、日中時間帯の利用者数増加に向けた時間帯の設定や運行内容についても継続して検討
- ⇒バス乗務員人材確保に関する関係機関、団体との連携

【施策イメージ】 村内交通資源を活用した市街地内移動の利便性向上

施策②村内交通資源を活用したラストマイル交通の検討・導入

- ⇒池田地区や曲川地区など幹線道路から離れている地域への適用を想定
- ⇒余市町までのアクセス確立後、導入時期も含めた実施方法を検討
- ⇒社会福祉協議会を通じて、地域の支え合い活動との連携も重要

【施策イメージ】 JRや高速バス、その他路線バスとの接続を確保

施策③地域間幹線系統の維持に向けた余市駅における接続の確保

- ⇒小樽市や札幌市、倶知安町への重要なアクセス手段である地域間幹線系統の維持に向け、接続を確保し、赤井川村民の利用者数の維持及び増加を図る

【施策イメージ】 福祉移動支援策の維持と充実

施策④福祉移動支援策の充実

- ⇒既に実施している福祉移動支援策の維持（ソフト面）
- ⇒福祉移動支援事業者（社会福祉協議会等）と情報提供・連携等の支援
- ⇒指定管理者が中心となって実施主体となり運用
- ⇒関係機関と連携し、新たな体制づくりを行う

方向性② 村民が主体的に公共交通に参画・協働できる機会の創出

【施策イメージ】 余市町からの小樽市、札幌市への乗り継ぎ手段・時間等を整理したバスマップ

施策⑤生活圏を踏まえた公共交通情報の提供

- ⇒施策①で運行する公共交通（むらバス）の運行時間と連動した乗り継ぎ情報の提供

【施策イメージ】 赤井川村・余市町間の往復を例に目的に応じたガイドツアーの実施

施策⑥公共交通に参画するための利用ガイドツアーの実施

- ⇒高齢者や子育て世代などを対象
- ⇒買い物や通院など日常的にバス利用で代替できる可能性のある利用目的ごとに実施
- ⇒乗車方法や滞在時間中の過ごし方などをレクチャー

【施策イメージ】 公共交通への抵抗感緩和に資する乗りやすさの追求

施策⑦馴染みやよく利用しやすいバス利用環境の創出

- ⇒バス乗降時の不安の軽減による乗りやすさの創出
- ⇒手すりやステップ付きの車両の導入
- ⇒交通量が多い箇所などにおけるバス停留所位置の変更
- ⇒運転免許返納者や高齢ドライバーに対するバス利用促進を検討
- ⇒SNSなど活用したバス運行情報の発信方法の検討
- ⇒バス利用促進PRの展開

【施策イメージ】 継続的に利用者の意見を聴取

施策⑧協働で創り上げる公共交通の運行に向けた意見交換会の実施

- ⇒過年度同様、村内3地区での実施を想定
- ⇒既存の集まりに訪問するなど、幅広く意見を聴取する機会の創出についても検討

【施策イメージ】 定期券など現金以外の支払い方法の検討

施策⑨運賃支払い方法の簡便化・高度化

- ⇒毎日の利用が想定される高校通学者、通勤者が利用できる定期券の導入を検討
- ⇒紙媒体による簡便化だけでなく、既存のICカードなどを活用した支払い方法の高度化についても検討

【施策イメージ】 バスを身近な交通手段として捉えるための機会を創出

施策⑩バスとふれあう機会の創出

- ⇒未就学児や小学生を対象にバス展示会などを開催し、バスが身近な交通手段であることの意識を醸成
- ⇒施策⑥との連動についても検討
- ⇒学校教育活動におけるバス利用機会の創出

【施策イメージ】 村内交通資源などを活用した拡充を検討

施策⑪観光客の村内周遊手段及び来訪手段の拡充

- ⇒赤井川村や余市町の交通結節点において、既存交通資源などを活用した移動先での交通手段の確保を検討
- ⇒むらバスとの連動性として、村内スタンプラリーなど、村内を周遊観光の促進に向けた取組、PRについても検討
- ⇒既存交通資源や既存の取組などを活用し、札幌市・小樽市からの交通アクセスの利便性向上の検討や村内リゾートエリアと北後志地域観光利用促進の検討
- ※活用する交通資源・取組については、協議会での合意形成を行った上で活用を検討

方向性③ 持続的な公共交通の確保・維持に向けた体制の強化

【施策イメージ】 PDCAサイクルによる推進施策の実施・評価

施策⑫：赤井川村地域公共交通活性化協議会の機能強化

- ⇒年2回の赤井川村地域公共交通活性化協議会の開催により、下記の表に基づき目標値等の評価を実施

目標値案	数値・評価イメージ
むらバスの利用者数（人/年度）	増加：現況値（R2年度）と目標値（R8年度）
むらバスの収支率（%/年度）	増加：参考値（R2年度実施時）と目標値（R8年度）
生活移動のための支援事業費用（円/年度）	増加：参考値（R2年度実施時）と目標値（R8年度）
意識醸成の場や機会の創出回数（回/年度）	増加：現況値（R2年度）と目標値（R8年度）
免許返納者数（人/年度）	増加：現況値（R2年度）と目標値（R8年度）
広報での周知回数（回/年度）	増加：現況値（R2年度）と目標値（R8年度）
通学時間帯における村外交通との接続状況	接続状況の確認
ニーズ把握の状況	継続したニーズの拾いこみ
地域公共交通従事者の確保（人/年度）	維持 or 増加：現況値（R2年度）と目標値（R8年度）

赤井川村地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄